8 月の空に思うこと

園長　野中　泉

「えっ？日本が戦争をしたのはずっと昔じゃないの？戦争にあったのに生きている人がいるの？」
もうすぐ 22 歳になる娘にそう尋ねられたのは、彼女が小学 5 年生の夏のことでした。その日は 8 月 6 日でテレビからは、広島での平和記念式典の様子が流れていました。自分のおばあちゃんと同じくらいの年代の人が「あの日のことを思い出すと・・・」と語る姿に娘はとてもびっくりした様子でしたが、すかさず、中学生だった兄が「そんなことも知らないの？日本に戦争があったのも、原爆が落ちたのも 63 年前のことだよ。うちのじ～やん（祖父）もあ～ちゃん（祖母）も戦争のときに小学生だったんだよ」といばってバカにし、その後娘が少しすねた顔をしていたことも併せて今も、鮮明に覚えています。

6 月の終わりに、アトムの育む会主催で「異文化交流会」がありました。ゲストに来てくれたのは、ばなな組のハミちゃんのご両親と、その仲間たち 10 人あまり。ベトナムから来ている若い彼らが一生懸命な日本語で教えてくれたベトナムの話はとても興味深く、そして前日からみんなで用意してくれたベトナム料理もとても美味しく温かな楽しい交流会だったのですが、そこでハミちゃんのお父さんがこんなふうに言いました。「私たちの国ベトナムは、戦争ばかりの国でした。私は、自分の子どもたちのために、ベトナムを日本のように平和で豊かな国にしたい」。その当日も、今も、私たちの国は本当にハミちゃんのお父さんたちに憧れてもらえる国だろうかと考え続けています。

平成という時代が終わるときに先の天皇陛下が「平成の時代は戦争がなかったということが、一番重要だと思います」と語られたことがまだ記憶に新しい中、国会では「憲法改正」が大きな話題になっています。テレビを見ていると「憲法の９条（戦争の放棄）の内容は、考え直した方がいいですね」と当たり前のように話す国のえらい人達が次々に映し出されます。「いやあ、暑くなりましたね～」とか「最近景気はどうですか？」というのと同じ調子で「戦争は、絶対しませんなんて、今の時代にはあわないでしょ」と愛想笑いを浮かべながら話すおじさんたちの姿に、とほうもない怖さを感じてしまうのは、私だけでしょうか。

あの日ただただびっくりしていた小学生の娘は、その年の夏休みにこんな作文を書きました。
『わたしは、戦争という言葉をきいたことがあったし、日本が戦争をしたことも知っていました。でも、わたしのおばあちゃんや、おじいちゃんやわたしが会ったことのある人が、本当に戦争で殺されそうになったなんて、ちゃんとわかっていませんでした。
今の日本でも殺人事件はたくさんあります。ときどき理由もなく何人も殺す人がいたら、ものすごいニュースになります。でも、戦争では何万人、何十万人の人たちが理由もなく殺されます。うちのおばあちゃんや、おじいちゃんのことも、だれかが理由もなく「殺そう」と思ったり、「死ねばいい」と思ったのだと思ったら、私はすごく悲しいです』

ギラギラ夏の陽射しの中、私がこの原稿を書いているアトムの事務室には、水遊びに嬌声をあげる子どもたちや保育士のにぎやかな様子が聞こえてきます。こんな毎日が守られていくために、私ができることは何か。そう考え続けているのに、明確な、答えはなかなかでてきません。でも、ひとつだけ、私が出会っている誰の命も「殺していい」と勝手に決められるのは嫌だということだけは、はっきりとわかっています。